

## 中小企業診断士への道(の途中)

### 1. 自己紹介

某メーカーで経営企画の仕事をしており、業務のスキルアップに直接役立つと考え、中小企業診断士の勉強を始めました。2次筆記試験に何度も阻まれ、4回目で合格しました。

主に、TACの教室講座に通い、特に4年目はAASの通信講座をオプションで加えることで、基本はTACのメソッドをベースに、AAS他の予備校で、自分に不足していると考えたポイントを補強することでゴールに至りました。4年間という時間は確かに長かったですが、その間に、予備校の勉強会仲間との出会いもありましたし、その間も仕事では学んだことを活用できましたので、有意義な時間だったと考えています。

### 2. 学習方法について

#### 2-1. 全般

1年間を通じて学習のモチベーションを維持し続けるというのは、なかなか大変です。特に、多年度受験になってくると、時には合格への道筋が見えなくなって苦しくなります。しかし、多年度受験生は、1年間を通じてどのようなイベントがあり、それまでに自分の状態がどうなっているべきかを、身をもって経験したことで分かっている、という強みがあります。そのため、年度のはじめに、自分の弱点がどこにあるのかを振り返り、年間を通した学習計画を立て、必要に応じ途中で軌道修正を行いました。また、本番1ヶ月前は学習計画を週次で立てそれをこなしていくことで迷いによるぶれを防止しました。PDCAを回すためにも、計画策定と学習記録は必須です。

中小企業診断士のミッションが、企業診断と助言であることを考えれば、試験対策として、自ら考えて自己診断と自己改善を繰り返していくことができるか否かは、診断士としての能力をつけることそのものでもあります。その意味で、予備校の授業や講師の先生の指導だけではなく、時間はかかっても自分自身で工夫を重ねることが、非常に大切ではないかと考えます。その際、思い込みだけで走らないように、自分で考えたことを、講師の先生に相談し助言をいただきながら進めることをお勧めします。

#### 2-1. 1次試験

1次試験は比較的すんなり通過しました。1年目に、1次試験対策だけで1,000時間以上学習時間に使った結果、危なげなく通過したものの、2次筆記試験はお作法(試験の暗黙のルール)もよくわからないままに受験しあえなく敗退。その代わりに、2年目以降は、1次試験向けは中小企業経営・政策を中心に100時間程度の学習時間で十分合格点を取ることができました。1年目にしっかり知識を入れておくことは、2次試験にも役に立ちますので、ストレート合格にこだわらず、1次の知識を曖昧なままにしないことをお勧めします。

#### 2-2. 2次筆記試験

2年目以降は、2次試験中心に学習を行いました。2次試験は、「設問の解釈」→「本文の(文脈を)読む」→「解答を考える」→「規定の文字数で編集して書く」という作業と、「それをコントロールす

るプロセス」から成りたっています。そのどこに自分の弱点があるのかを自己診断して改善することの繰り返しでした(H27の事例Ⅲで出題された TOC 理論のごとく、やっかいなことに、ボトルネック工程は移動します!)

2年目は、2次試験の作法を知り、80分をどう使うかの手順をある程度確立することがテーマでした。また、事例を解くにあたり、課題解決を強く意識することを心がけました。3年目は、事例Ⅳ対策と過去問の徹底的なやり込みです。H14～H25までの問題を解き、自分の解答と予備校の模範解答とのギャップの確認、事例の写経・要約による事例の作られ方の研究等を行いました。

4年目は、2次試験対策の基盤はできていると考えたため、他の予備校で提唱している考え方や教材も取り入れ、自分の弱点と思われる部分を潰していくことにしました。予備校の講座については後述しますが、ひとつは国が中小企業に対して期待し行っている政策を理解すること、もうひとつは、事例を文脈として読むことで出題者が一番言いたいテーマは何かを適切に捉えることです。そのふたつを解答作成時の羅針盤として持つことで、出題者の準備した解答から大きく逸れることはないという仮説に共感したからです。また、本番と同じ試験環境をできるだけ多く体験し疲れ具合も含めて身体で感覚を覚えるために、各予備校の模試等を活用し、少なくとも1回/月は本番と同じ時間で4事例を連続して解く時間を作りました。

試験直前の1ヶ月は、セルフ模試を2回実施し時間感覚を忘れないようにすること以外は、ひたすら過去問を読み返していました。解答はすでに覚えてしまっているため、編集等のスキルは要約練習で維持する方針とし、事例の与件文と設問を読み解答の方向性を思い浮かべるところまでを、H14からH26までの52事例(13年分×4事例)を可能な限り回転させていました。また、演習の振り返り時に纏めていた自分の弱点リストと事例Ⅳのポカミスを繰り返し読むことで、同じ間違いを本番でしないように己を知ること直前1ヶ月に集中して行いました。これらは、通勤の電車、風呂、トイレの中の隙間時間でできますので、まとまった時間の取れない平日にも途切れることなく少しずつでも続けることができました。

### 2-3. 2次口述試験

口述試験は、落とす試験ではないとは言え、最後の関門を恥ずかしくない形でクリアしようと考えました。口述の模擬面接を4回受けましたが、1回目に、筆記と口述の大きな違いを感じました。2次の筆記試験では、「出された問題のどの問題から解くかとその時間配分」および「決められた文字数の中にどう解答要素を組み立てて入れていくか」が重要ですが、口述試験では、解く順番を自分では決められませんし、一度口に出したことを、もう一度消しゴムで消してなかったことにはできません。筆記試験とはまた違った「話す」という経験を、模擬面接を何度か受けてみて、答え方に慣れることと度胸をつけておくことが、当日、予想外の事象に対して、落ち着いて対応できる一番の対策ではないかと思います。

### 3. 予備校の活用方法について

下記は、どの予備校が良い・悪いということではなく、自分の学習経路を踏まえて、各予備校の使い方をコントロールすることが必要、ということです。

### 3-1. TAC

1年目は1次試験を中心に、2年目以降は2次試験を中心にTACの教室講義で学習しました。そのため、私の2次試験対策のベースはTACメソッドです。他の予備校に変えなかったのは、2年目である程度固めた事例の解き方について、大幅な変更をすることは、効率が悪くリスクも大きいと考えたからです。教室講座でしたので、講師の先生が非常に親身になって学習の仕方やモチベーション向上の相談に乗っていただけたことも予備校を変更しなかった理由のひとつです。

### 3-2. AAS

AASは、3年目に事例Ⅳを徹底的に強化するために、AAS東京の「事例Ⅳイケカノート特訓」のオプション講座を受講しました。4年目は事例Ⅰ強化の目的で「事例Ⅰ・これだけやればA判定」のオプション講座を受講するとともに、年間を通じて、AAS名古屋の「読み書きトレーニング(春秋要約)」、AAS関西の「中小企業白書Web特訓」を受講しています。

「読み書きトレーニング(春秋要約)」は、自分の一番の弱点だった文脈を読んで全体を俯瞰する非常によい訓練になりました。添削は週次ですが、春秋要約は毎日行いましたので、「読む/考える/書く」という訓練のサイクルを回すことができたのも良かったと思います。「中小企業白書Web特訓」は、事例を解く前提に必要な中小企業白書の知識を蓄積するのに有効でした。最後に解答の方向性を決める際に、国の考えている方針を意識することができました。AASの教材は、解答の書き方(e.g. 主語を明記することで採点者が採点ポイントを把握しやすいなど)という点でも、改めてスキルを強化する教材になりました。

### 3-3. MMC, LEC

1日4事例をこなす感覚を身体に染み込ますことを目的に、4年目はMMC4回、LEC2回の模擬試験も受験しました。TAC2回、AAS名古屋2回も受験していますので、過去問等を使ったセルフ模試も含め10回以上、本番と同じ時間帯で4事例を解いたこととなります。

## 4. 今後の活動

中小企業診断士の学習を通じ、自社内で経営上の課題がいろいろと見えてきた部分もあるので、まずは、企業内診断士として経営企画の仕事をしていく予定です。ただし、それにとどまらず、各種活動に参画することで、自分の知見・活動の場を社外へも広げていきたいと考えています。

中小企業診断士の学習を通じて得たものを使って、地域活性化にも貢献していくことができれば、望外の喜びです。

## 5. 最後に

自分にとって、有効だったと考える学習のポイントをご紹介します。ただし、他人の合格体験記は他人のもので、経験のベースも違い、学習の経路依存性も強い試験ですので、まったく同じことをやったからといって合格するものではありません。自分にとって使えるところ

は試してみて、自己診断と自己改善を繰り返すことによって、自分自身の合格体験をつかみ取っていただくことが、一番の近道であり、必要なことだと思います。

また、最後になりましたが、学習期間中、親身にご指導いただいた各予備校の講師の先生方と、一緒に学習してきた勉強仲間の皆さんに心から感謝いたします。

—以上—